

研修事例

受託研究

支援先

笠間市

笠間焼伝統技法の習得

【内 容】

笠間市ではタイ・メーファールアン財団によるドイトン地区山岳民族救済事業・陶器工場への笠間焼技術者の派遣および技術者受入事業を行っています。

笠間市よりタイの陶器工場運営の中心的役割を担う人材育成について相談があり、専門分野が限られている職人が工場管理に必要な幅広い技能（成形、釉薬、焼成等）が習得できるようなカリキュラムを提案・実施いたしました（表1）。

表 1 カリキュラム概要

	課 題 (A M)	課 題 (P M)
5月	課題Ⅰ てびねり成形	ロクロ成形① 飯碗
6月		
7月	課題Ⅱ 釉薬調合	
8月	夏季休暇	
8月	課題Ⅱ 釉薬調合	ロクロ② 5寸皿
9月	課題Ⅲ 石膏型鑄込み	ロクロ③ 切立
10月		
11月	課題Ⅳ 修了制作	
12月		ロクロ④ 袋物
	冬季休暇	
1月		
2月	陶芸マニュアル作成(タイ語)	
3月	修了制作発表会 (笠間市)	

【研修内容】

研修期間は5月7日～3月15日です。

内容が多岐にわたるため、午前中を「てびねり成形」「釉薬調合」「石膏型製作／鑄込み技法」、午後は「ロクロ成形」「技術課題」という効率的な習得ができるよう工夫いたしました。

とくに釉薬は研修生が帰国後も地元の原料を使って調合ができるように、タイの原料（マカダミア灰、ヤーフェク灰）の化学分析値から合成した材料で指導いたしました。

11月より学んだ事を総合的にまとめた「修了制作」課題として取り組みを指導いたしました。また週1日程度デザインや絵付け・化粧技術を学ぶ「加飾」課題および教養講座を実施しました（図1）。

【研修結果】

研修修了時には笠間市内の施設において修了制作発表会（平成31年3月5日～12日まで）を行います。修了制作と同時進行で研修中の日報指導をもとに陶芸指導マニュアルの作成指導を行います。

現在では陶芸専門用語も習得しており、帰国後はタイの陶芸振興の中心的役割を担うとともに、タイ、そして世界に対する笠間焼発信の担い手として活躍が期待されます。



図 1 研修の様子（ロクロ課題、釉薬調合、加飾実習、作品）

基礎となった事業

平成 30 年度 笠間陶芸大学校事業

現在の担当部門

人材育成部門

部 門 長 尾形 尚子
主任研究員 常世田 茂
嘱 託 根本 達志

TEL:0296-72-0316